

北 一輝 (きた・いっき) 1883~1937

革命思想家 ~日本の国家社会主義者~

出生 1883年(明治16)4月3日、新潟県加茂郡湊町(現両津市)に酒造業・海産物問屋を営む父・慶次郎(のち両津町長)、母・リクの長男として生まれる。本名は輝次、のち輝次郎。一輝を名乗るのは1916年以降。

履歴 1897年、佐渡中学校に入学したが、眼病のため1900年に中退。1904年早稲田大学に聴講生として入学(半年で退学)。1906年『国体論及び純正社会主義』を自費出版するが発禁処分。この頃社会主義者との交渉もあったが、中国革命同盟会に入会。1911年宋教仁の招きにより上海に渡航。同時期間淵ヤス(すず子)と結婚。1913年日本総領事より国外退去処分。1916年再度上海に渡航し、『国家改造案原理大綱』を執筆。上海より帰国後、1920年猶存社に入る(1923年解散)。1926年宮内省怪文書事件により検挙、1927年保釈出所。1936年、二・二六事件により検挙、1937年軍法会議で首魁とされ死刑判決。



事績 出生地佐渡に昔からあった尊皇思想、法華経信仰や、明治以後の自由民権思想などに早くから影響を受け、少年時代には『明星』に投稿するなどの文学活動もあった。『国体論及び純正社会主義』の基調には社会主義に対する関心があるが、最も強調していたのは万世一系的国体論に対する反論と、経済的平等の実現を目指す第二維新革命の必要性だった。その後、中国に渡り革命の援助を行う。その経験から、孫文や日本の対華政策を批判している。第一次大戦後はアジアに対する列強の進出、ロシア革命政権の脅威ならびに英米の現状維持体制の推進に危機感を深め、これに対してアジア解放の指導者たるべき日本の国家体制の変革を志し、「国家改造案原理大綱」を執筆した。このなかで、共産主義にも民主主義でもなく、日本に特有な天皇を奉じ、クーデターによって現政権を打倒、現行憲法を停止して国家改造議会を招集し、政治・経済・社会の根本的改造を行うべきことを主張し、その具体的かつ詳細な改革案も示した。最終的な目標は、国家改造によって得られた国力・軍事力によってアジア民族の解放および世界の領土・資源の公平な再分配をはかることだった。しかし、軍人を特殊なエリートとし、これに依存する傾向が強く、イギリス・ソ連等を中国大陸から排除しようとする外交方針から一部陸海軍将校から聖典視された。このような国家改造運動の指導者である一方、三井などの財閥に密着して活動資金を得、宮内省の高官や財界に対して恐喝に類する策謀を行い刑に服したこともある。

評価 北一輝に対する評価は、人によって様々なものとなっている。『『北一輝』論集』では北一輝の全体像について「ファシスト、国家主義者」「社会主義者」「革命的ロマン主義者」「土着的革命家」の4つに分けて紹介している。『国体論及び純正社会主義』に対する評価だけを見ても「日本近代思想史上、もっとも重要な意味を持つ」(渡辺京二)というものから「理解に苦しむこんとん(混沌)たる思想」(田中惣五郎)というものまであり、評価は定まらない。

代表作

『日本改造法案大綱』 戒厳令下の軍事独裁による国家改造プログラムを説いた書。内容には反動的な面と進歩的な面が混在するユニークな体系を持っている。最初は「国家改造案原理大綱」の名で書かれ、一部削除改題の上、改造社から刊行され、その後も数種の版が流布した。著作集第2巻に収録。

『国体論及び純正社会主義』 北一輝が23歳の時にマルクスの社会主義、ルソーの民主主義でもない著者独特の社会民主主義を唱導するために自費出版したもの。河上肇、片山潜などの賛辞を受けたものの発禁になった。著作集第1巻に収録。

『支那革命外史』 清末から中華民国にかけての革命運動とその将来の見通しについて書かれたもので、自序には「清末革命の前後に互る理論的解説と革命支那の今後に対する指導的論議である。同時に支那の革命と平行して日本の対支政策及び対世界策の革命的一変を討論力説してある。」とある。著作集第2巻に収録。

最期 1937年(昭和12)8月19日、死刑執行により銃殺。享年54歳。

Great Works 21

北一輝著作集 全3巻 みすず書房 1959 - 1972 <請求記号 310.8 / 3 >

解題 『国体論及び純正社会主義』『日本改造法案大綱』といった著書から佐渡時代に書いた詩歌や二・

二六事件における憲兵隊調書、警視庁聴取書など関係資料を集めた全集。

内容

第1巻 國體論及び純正社會主義 [1906年 自費出版]

第2巻 支那革命外史 [1921年 大鏡閣] 國家改造案原理大綱 [1919年] 日本改造法案大綱 [1923年 改造社]

第3巻 論文・詩歌・書簡 - 関係資料雜纂 論文・詩歌 - 佐渡時代 [佐渡新聞等に掲載された論文・詩歌] 論文・詩歌 - 革命評論社時代 [革命評論等に掲載された論文・詩歌] 辛亥革命に関する黒竜会記録 宮内省怪文書事件聴取書、訊問調書 十五銀行怪文書事件聴取書、訊問調書 建白書 二・二六事件調書 書簡・遺書 北一輝語録ほか 北一輝への人物評 著書について 年譜

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 北一輝と二・二六事件の陰謀 / 木村時夫著
恒文社 1996年 323p <210.7EE / 344> 資料番号 20821245
- 📖 革命家北一輝 - 「日本改造法案大綱」と昭和維新 / 豊田穰著
講談社 1991年 451p <289.1AA / 3006> 資料番号 20404174
- 📖 北一輝と幻の維新革命 - 昭和クーデター史 / 矢野久義著
社会評論社 1991年 317p <210.7Z / 277> 資料番号 20334652
- 📖 北一輝伝説 - その死の後に / 松本健一著
河出書房新社 1986年 159p <289.1T / 2310> 資料番号 12363537
- 📖 『北一輝』論集 / 五十嵐暁郎編
三一書房 1979年 373p <289.1L / 1547> 資料番号 10536134
- 📖 北一輝 (朝日評伝選 22) / 渡辺京二著
朝日新聞社 1978年 304p <289.1K / 1460> 資料番号 10535086
- 📖 北一輝 - 人と思想 / 松沢哲成編
三一書房 1977年 374p <289.1H / 1364> 資料番号 10534030
- 📖 北一輝論 / 松本清張著
講談社 1976年 339p <289.1G / 700> 資料番号 10526564
- 📖 北一輝研究 / 宮本盛太郎著
有斐閣 1975年 321p <289.1 / 1201> 資料番号 10532125
- 📖 北一輝と超国家主義 / 岩瀬昌登著
雄山閣 1974年 3,203p <289.1E / 1107> 資料番号 10531085
- 📖 北一輝 - 日本の国家社会主義 / 滝村隆一著
勁草書房 1973年 368p <313.1 / 75> 資料番号 10663219
- 📖 よみがえる北一輝 - その思想と生涯 上・下 / 長谷川義記著
月刊ペン社 1973年 2冊 <289.1D / 1018> 資料番号 10530145, 10530152
- 📖 北一輝論 / 松本健一著
現代評論社 1972年 309p <311.2 / 49> 資料番号 10650158
- 📖 北一輝と日本の近代 / G・M・ウィルソン著 岡本幸治訳
勁草書房 1971年 16,253,7p <289.1C / 936> 資料番号 10529261
- 📖 北一輝 - 日本のファシストの象徴 / 田中惣五郎著
三一書房 1971年 457p <289.1 / 212A> 資料番号 10520468

<図書(部分)>

- 📖 盲信の悲劇 - 北一輝は、なぜ処刑されねばならなかったか / 山本七平著 (昭和天皇の研究)
祥伝社 1989年 p179-202 <288.4X / 157> 資料番号 20098539
- 📖 北一輝 / 有馬学著 (言論は日本を動かす 第6巻)
講談社 1986年 p159-197 <281T / 122 / 6> 資料番号 12357208
- 📖 北一輝 / 高橋和巳著 (20世紀を動かした人々 第13巻)
講談社 1963年 p339 - 414 <280.8 / 10 / 13> 資料番号 10496974